

## 目次

陸上駅伝部.....	3
弓道部.....	3
剣道部.....	4
サッカー部.....	4
山岳部.....	5
自転車部.....	5
柔道部.....	6
硬式テニス部.....	6
新体操部.....	7
卓球部.....	7
ソフトテニス部.....	8
バスケットボール部.....	8
バドミントン部.....	9
バレーボール部.....	9
ハンドボール部.....	10
ボクシング部.....	10
野球部.....	11
ラグビー部.....	11
ギター部.....	12
写真部.....	12
茶道部.....	13
吹奏楽部.....	13
情報システム部.....	14
美術部.....	14
ハングル語研究部.....	15
建築研究部.....	15
機械技術部.....	16
企画実行委員会.....	16
放送委員会.....	17
應援團.....	17
進路委員会.....	18
環境委員会.....	18
図書・新聞委員会.....	19

保健委員会.....	19
選挙管理委員会.....	20
規律委員会.....	20
交通安全委員会.....	21
家庭科クラブ.....	21



## 陸上駅伝部

芦澤 詩季野

私たち陸上駅伝部は、それぞれが自分の目標に向かって、時にはひたむきに、時には仲間と支え合いながら、日々技術向上を目指して練習に取り組んでいます。

陸上競技は、走る・跳ぶ・投げるといった人間の基本的な動作をもとに、速さや高さ、距離を競うスポーツです。そのため個人競技が中心ですが、部活動では互いに声を掛け合い、励まし合いながら練習する、活気ある雰囲気大切にしています。練習がきついときや、怪我をしてしまった時でも、仲間が優しく声をかけて支えてくれることが甲工陸上駅伝部の大きな魅力です。

現在は冬季練習の厳しい時期ですが、総体に向けて部員全員が切磋琢磨し、それぞれの目標を達成できるよう努力を重ねています。仲間とともに成長し、名実ともに最強の陸上部を目指して進み続ける陸上駅伝部です。

## 弓道部

宮部 紗枝

私たち弓道部は、1・2年生の女子4名、男子14名で活動しています。今年は東日本大会県予選で男女団体が優勝し、県総体では女子団体が優勝しました。また、インターハイ予選でも男女団体がともに準優勝し、個人でも男女それぞれが3位に入賞するなど、大きな成果を上げました。これらの結果は、日々の努力の積み重ねによるものです。部員同士が高め合う場面もあれば、意見が対立することもあります。互いに高め合える点は本活動の魅力ですが、必要以上に力が入りすぎる場面もあり、「動作の意味を理解しているか、練習が目的化していないか」という課題が見られることがあります。現在は指導者が不在のため、自分たちで考えながら練習を進めています。その中で知識不足を感じる場面もありますが、指導者の射を模倣するだけでなく、自らの理想の射を追求できる点は大きな利点です。これからも一射一射を大切に、さらに成長できるよう努力を続けていきます。

## 剣道部

荒井 悠帆

私たち剣道部は月曜日を基本オフとした週六日間格技場にて活動しています。部員数は一年生五名、二年生六名の計十一名で関東大会や、インターハイ出場を目指して日々稽古に励んでいます。また、普段は顧問である内藤先生の指導の下稽古を行っていますが、日曜日の稽古では、OBの先生方や先輩方の指導をメインとした稽古を行っています。土日祝日では、練成会や県外大会などに出場して少しでも格上の相手と戦えるように経験を積んでいます。私たちは小中学生の頃あまり目立った成績を残せていない選手が多い中で、県で上位を狙っていく為に日々の稽古から、自分を追い込んでいくことで今まで勝てなかった相手に勝っていくことを目指して取り組んでいます。そして過去の先輩に国スポ山梨県代表の中堅で大活躍した先輩もいるため部内で高めあって多くの成績を残していきます。

## サッカー部

武藤 颯亜

私たちサッカー部は11月に新チームとしてスタートしました。昨年、チームとして目標を達成することができませんでした。二年生の多くは、昨年も試合に関わるが多かった中で悔しい思いをしました。そこで私たちは今年度、県大会優勝を目標に設定し、スローガン「再起、古豪復活」を掲げました。また、【タフチョイス】という合言葉を大切に、練習を行っています。【タフチョイス】とは、練習や試合でキツイ選択を選んでみんなで強くなっていくという思いが込められています。私たちが目標を達成するためには、今までの基準を上げていく必要があると思います。サッカーのみならず日頃の学校生活や日常も含めて強くなるために行動していきたいと思っています。勝負にこだわり、厳しい練習を仲間と共に助け合い、乗り越えていき目標を達成させます。年間を通して最後に満足できるよう全力で戦っていきます。

## 山岳部

丹澤 朗

山岳部は、登山を通して自然の魅力を深く味わいながら、心身を鍛える部活動です。季節に応じて低山から本格的な山まで幅広く挑戦します。春は新緑、夏は高山植物や星空、秋は紅葉、冬は雪山など、さまざまな自然を体感できるのが山岳部の大きな魅力です。活動前には必ず登山計画を立て、ルート確認、天候、装備の確認などを丁寧に行います。山では一人ひとりの行動が安全に直結するため、責任感や判断力が自然と身につきます。また、仲間と声を掛け合い、助け合いながら登ることで、協調性や信頼関係も深まります。登山は決して楽な事ばかりでなく、きつい登りや悪天候もあります。しかし、その困難を乗り越えて山頂に立ったときの達成感や、仲間と分かち合う喜びは何ものにも代えがたい経験です。初心者でも基礎から先輩が丁寧に指導するので安心して始められます。自然が好きな人、体を動かしたい人、新しい挑戦をしてみたい人におすすめの部活です。

## 自転車部

米倉 一豊

私たち自転車部は、部の伝統を守り牽引してくれた先輩方が引退され、2年生4名、1年生3名の新体制で部活動を行っています。新体制になって不安な部分がありますが、これまで牽引してくれた先輩方の教えを忘れずに、日々の練習に生かしていきたいです。先輩方はインターハイなどの全国大会に出場し、上位入賞の成績を取って来ました。私たちも一人一人が、個人・団体種目の両方で全国大会入賞ができるよう日々練習に励んでいきます。今年度は全国大会や他県との合同合宿を通して、全国レベルの高さを実感し、また自分たちに足りないものや課題を発見し、成長の糧となる年になりました。新年度は全国大会や国民スポーツ大会などの大舞台で表彰台に乗ることを目標に、頑張っていきたいと思います。また、甲府工業高校だけではなく、山梨県全体の競技力向上のためにも他校と互いに切磋琢磨しながら一日一日を大切に、練習に取り組んでいきます。

## 柔道部

帯金 秀弥

私たち、柔道部は1年生5人、2年生5人、合計10人で団体個人ともにインターハイ出場を目指して活動をしています。甲府工業柔道部は、多数の指導者のご指導のもと心と体どちらとも強くするため、全員で日々練習を全力でしています。練習内容は平日の朝は朝練を実施し、基礎体力を上げるためのランニング、筋力向上のためのタイヤ引き、ウエイトトレーニングを行い、放課後は前半にロープ登りなどの筋力トレーニングをして、後半柔道の実践練習を行います。このような練習内容で目標に向かって頑張っています。私達、柔道部は10人という少人数で活動をしている部活であり、そのため、限られた中での練習を行っていると思います。ですが、我々はその限られた練習環境の中で何ができるのかを一人一人が常に考え、行動することで、質のいい練習をしています。みんなが同じ目標に向かって、甲府工業柔道部は頑張っていきます、これからも私たちを見ていてください。

## 硬式テニス部

藤原 大貴

私たち硬式テニス部は、顧問の先生方やOBの先輩方のご指導の下、日々練習に励んできました。関東大会・インターハイ出場を第一の目標として取り組んできましたが、今年度は惜しくも予選で敗退し、悔しさの残る結果となりました。この悔しさを胸に、来年度こそ目標を達成できるよう、部員一人ひとりが課題に向き合い、試行錯誤を重ねながら練習を続けています。来年度、2年生は最後の大会を迎え、1年生は部を支える中心としてチームを引っ張っていく立場となります。これまで先輩方が築いてこられた伝統ある部活動を受け継ぎ、顧問の先生方からいただいたご指導を生かしながら、より一層飛躍できるチームづくりを進めていきたいと考えています。

また、日頃より応援して下さる顧問の先生方、保護者の皆様、地域の皆様への感謝の気持ちを忘れず、精一杯努力してまいります。

## 新体操部

佐藤 流星

私たち新体操部は、3年生が引退し、2生のみ5名で活動しており、全員が初心者からのスタートでした。新体操は一つ一つの動きに細かな意識が必要で、技の難しさに悩むこともありましたが、互いに動きを確認し合い、アドバイスを伝え合うことで、自分では気づけなかった課題に気づき、成長することができました。苦しい時期もありましたが、先生方や部員と協力しながら練習に対する意識を変えて実践することで、一回一回の練習を大切にできるようになりました。今年度は目標としていたインターハイに届かず、悔しい結果に終わってしまいました。その悔しさを糧に、来年度はインターハイに出場できるよう、部員と基礎を大切にしながら、一人一人が自分の課題と向き合い、チームとしてレベルアップできるよう、これからも切磋琢磨しながら練習に励んでいきたいと思えます。

## 卓球部

松木 琢馬

私たち卓球部は、6月から新チームとなり、2年生4名、1年生7名の計11名で活動しています。日々の練習ではインターハイ予選優勝を目標に励んでいます。昨年度は新人戦、県総体、インターハイ予選で団体優勝し、山口インターハイに出場することができました。この経験から、もう一度インターハイの舞台に立ちたいという思いが強くなりました。私たちの代で迎えた新人戦では3位となり、悔しさの残る結果でしたが、多くの課題を見つけることができました。現在はその悔しさをばねに練習に取り組んでいます。来年度は先輩方がつかみ取ったインターハイ予選団体優勝を再び勝ち取れるよう、中沢先生の指導の下、合宿や遠征で課題を克服し実力を高めていきます。卓球ができる環境への感謝を忘れず、支えてくださる方々に結果で恩返しできるよう努力していきます。

## ソフトテニス部

鎌田 壮太

私たちソフトテニス部は、1年生11人、2年生7人の計18人で県団体ベスト4を目標に掲げて日々の練習に励んでいます。私たちの部は先輩と後輩の距離が近く、お互いにアドバイスを出し合いながら改善点やペアとの考えを共有できるように工夫しています。普段の練習では、試合を想定して練習することを徹底しています。また、部員が希望する練習も取り入れ、弱点をなくし個々の武器を育てるようにしています。試合形式の練習を多く取り入れることで、練習したことを意識しながら戦う力をつけるようにしています。これからは、試合も増えてくるので、自分たちで立てた目標に向かってチーム全員で向かっていこうと思います。そして、残り少ない時間を無駄にしないように全力で取り組み悔いの残らないような結果を出せるように頑張っていきます。

## バスケットボール部

近藤 京介

私たちバスケットボール部は県ベスト8を目指し日々練習に取り組んでいます。年々、県全体のレベルが上がり、留学生や県外のトップレベルの選手と対戦しなければなりません。そのなかで勝つためには、厳しい練習に耐え、仲間同士で競い合いながら成長していかなければならないと思います。そのため、1日の練習では、ボールに触れない時間の方が多いときもあります。ランメニューやサーキットトレーニングなど誰しもがきついと思うメニューを必死に取り組んでいます。しかしまだ結果には結びついていません。つまり私たちにやるべきこと、やらなければならないことが多く残されているということです。それでも私たちは前進し続けます。どんな相手にもこれまで積み上げてきた自信と勝利へのプライドをぶつけます。

そして時間は限られています。一分一秒無駄にせず、チームテーマでもある「凡事徹底」を常に意識し、言葉だけでなく結果で示します。

## バドミントン部

山崎 甫

私たちバドミントン部は、16名の数少ない中活動しています。チームの目標は強豪私学に勝ち県で優勝、関東大会で勝ち進むことを目標に取り組んでいます。去年は練習試合や遠征を増やすことにより、プレーの上達を図ることができました。しかし、新人戦では決勝に進出することはできませんでしたが、強豪私学に敗れ団体戦2位という結果で終わり、目標を達成することはできませんでした。新人戦で見つけた課題をこれからの練習で克服していこうと思います。今年の総体は自分たちの年代にとって最後の大会ですので、今まで先輩たちが受け継いできた実績を超え、目標が達成できるようにチーム一丸となって励んでいきます。試合に勝つとともに、チームの雰囲気や大会での応援もほかの学校に負けないようにしていきます。最後に部活動ができるのは当たり前なことではありません。支えてくれた顧問の先生、保護者の方々に恩返しができるようにこれからの練習に励んでいきます。

## バレーボール部

立川 直生

私たち男子バレーボール部は2年生6名1年生10名の計16名で活動しています。3年生が引退してから不安なことなどもありますが、私たちの目標である春高山梨県予選決勝出場を達成できるように日々練習に取り組んでいます。練習では基礎練習やゲーム形式の練習、土日や祝日などでは県内や県外の強豪校と練習試合を行っています。また、顧問の先生や外部コーチの方々の力を貸してもらい、自分達の技術力やチームワーク、またバレーボールへの向き合い方なども学んでいます。苦しい時や辛い時も仲間と助け合い、切磋琢磨していきたいと考えています。部活動を通じてバレーボールの技術を向上させるだけでなく、仲間とのチームワーク、絆、また社会に出るための力を身につけることができます。部員同士も仲良く厳しくなることもあります。部員全員が同じ目標に向かって取り組むことで成長できます。甲府工業を強いと思わせられるよう頑張りたいと思います。

## ハンドボール部

長田 昊樹

私たちハンドボール部では、現在2年生が10名、1年生が6名、マネージャーが2名の計18名でベスト3を目標に日々活動しています。学校のグラウンドでの練習が多いですが、グラウンドでは主に体力づくりやシュートなどの基礎技術の向上を目的とした練習を行っています。また大会前などは体育館でも練習を行い、他校と練習試合などの実践的な練習を行っています。今までは3年生の背中を追って練習してきました。3年生が引退し、新チームが始動してからはチームをまとめるのに苦労し、うまくいかないことが多く3年生の偉大さに気づくことができました。

これまで先輩たちが積み上げてきたことを継承し、発展させていきたいと思います。これからも、ベスト3という目標を達成できるよう、日々練習に励んでいきたいです。

## ボクシング部

横溝 頼規

私たちボクシング部は、現在1年生10名、2年生6名の計16名で活動しています。今年度は3年生がいないため、1・2年生が中心となった活動となりました。最初はうまくやっていたのかという不安もありましたが、部員一人一人が日々の練習に真剣に取り組んでいます。練習や大会前の減量など、辛く苦しい場面も多くありますが、これらを乗り越えることで心身ともに強くなれると信じています。今年度の総体では、思うような結果を残せず、悔しい思いをした選手もいました。その悔しさを糧に、来年度はより良い成績が残せるよう、練習や筋力トレーニングに一切の妥協をせず、日々努力を続けていきます。ボクシングは個人競技ですが、周囲の支えがなければ成り立ちません。だからこそ感謝の気持ちを忘れず、応援してくださる方々の期待に応えられるよう、これからも頑張っていきます。

## 野球部

戸栗 功晴

私たち野球部は、今夏準決勝で山梨学院に敗戦し、新チームがスタートしました。新チームでは、春の選抜甲子園を目標に練習に励んできました。秋季関東大会 2 回戦で花咲徳栄に完敗し、あと1つのところでセンバツへの切符を勝ち取ることができませんでした。私たちはこの敗戦を経て、チーム、個人としてもなにが足りないのか選手同士や指導者と真剣に話し合う時間を設けました。自ら考え、自ら行動し、そして一人一人が本気で甲子園に行く気持ちを胸に練習に励んでいます。私たちの最終目標は、甲子園で校歌を歌うことです。試合に出ている人だけではなく、すべての人が相手に向かっていく意識が大切です。普段の練習では、仲間のことを意識して行動しています。いつも応援してくださっている全ての方に甲子園という最高の恩返しができるように最後の夏、全員で気持ちをひとつにして戦います。

## ラグビー部

平川 航大

私たちラグビー部は、現在 2 学年 13 名、1 学年 8 名、マネージャー 1 名で活動しています。昨年度の戦績は準決勝まで進むことができました。今年度は去年の主力メンバーの大半が 2 年生だったこともあり、決勝進出を目指して活動しています。部員の半分以上が高校からラグビーをはじめ、活躍をしています。日々の練習の中でウエイトトレーニングや体カトレーニングを行い、試合に挑んでいます。公式戦が少ないため様々な高校と練習試合をして場数をかけています。ラグビーはルールと礼儀を重んじる紳士のスポーツとして知られています。一人一人に大事な役割があり、体を張って戦う姿は多くの人に感動を与えます。私たちラグビー部はノーサイドの精神を大切にしていきます。現在の 3 年生が教えて下さったことを生かして、これからの目標達成に向けて頑張ります。

## ギター部

功刀 琉希

私たちギター部は、「楽しくギターに触れる」をスローガンに掲げ、音楽室で日々活動しています。学年やクラスの枠を越えて部員同士の交流が深く、いつも和やかな雰囲気の中で仲良く活動ができています。各自が弾きたい曲を自由に選んで練習するスタイルなので、自分のペースで意欲的に取り組むことができ、無理なく続けやすいのが魅力です。曲が弾けるようになったときの達成感はとても大きく、「もっとギターを弾きたい」と思える瞬間でもあります。

主な行事としては、県民文化ホールで行われる「芸術文化祭（器楽・管弦楽部門）」と、本校体育館で行われる「五葉祭」の文化発表内での演奏です。普段は個人練習が中心ですが、行事前には全員で合奏練習をします。最初はうまく息が合わないこともありますが、演奏が成功したときの喜びや一体感は格別です。

これからも私たちギター部は、「楽しくギターに触れる」という思いを大切にしながら、仲間とともに楽しく活動を続けていきたいです。

## 写真部

天野 夏旗

写真部は、一眼レフカメラを使い、写真表現に本気で取り組む部活です。私たちは学校行事や校内の風景、人物など身近な被写体を通して、その瞬間をどう切り取れば良いかを常に考えながら撮影しています。ただシャッターを押すだけでは良い写真は撮れず、構図や光、カメラ設定を工夫し、納得のいく一枚を求めて何度も撮り直すこともあります。最初は操作に戸惑うこともありますが、先輩や顧問の先生の指導を受けながら、基礎から確実に力を身につけていきます。撮影後には作品を持ち寄り、生徒同士で意見や講評を交わし、「次はどう撮るか」を考える時間を大切にしています。春・秋・冬の審査会や芸文祭などのコンクールにも出展し、上位の賞を受賞するなど努力が評価されてきました。また、撮影会や講習会にも参加し、自分の表現を磨き続ける、やりがいのある部活です。

## 茶道部

穂坂 悠希

私たち茶道部は3年生2名、2年生3名、1年生2人の計七人で活動しています。講師の笹本先生の教えを基に私たちは日々練習に励んでいます。10月下旬には高校芸術文化祭に参加して、練習の成果を披露したり、他校の点前を鑑賞したりすることで、他校の「芸術」について学びます。日本文化を尊重する茶道部にとって、芸術の交流をすることは、非常に貴重な機会です。また、五葉祭でも私たちは日々の練習の成果を披露する機会があります。普段行わないような体験を皆様にしていただけることで、日本の文化、茶道の文化について知ってもらえると思い努力しています。茶道部は、私たちのように文化について広める側の方が増えていき、茶道文化が身近に広がっていくようになるのを願って、これからも練習に精一杯励んでいこうと思います。

## 吹奏楽部

廣瀬真史

吹奏楽部は11月の定期演奏会で9名の3年生が引退し、現在1年生10名、2年生8名の計18名で活動を行っています。植松先生、大木先生、渡辺先生の3名の顧問の先生方に支えられ日々練習に励んでいます。

本年度は夏の山梨県吹奏楽コンクールにて銀賞をいただきました。あと一步のところまで金賞には届きませんでしたが、この悔しさをばねに来年こそは金賞を受賞し、西関東吹奏楽コンクールへ出場することを目標に練習を重ねていきたいと思っています。

私たちが練習で大事にしていることは、互いを聞きあうということです。吹奏楽において大事なものは音をつにすることであり、個々が目立ってしまうとは意味がありません。互いをしっかりと聞きバランスや音程、スピード感を合わせる方がいい演奏をするうえで大事なのです。

多くの方々に支えられて、私たちは活動ができています。これからも思いを一つに部員一人一人を大事に一つの目標に向かって努力を重ねていきたいです。

## 情報システム部

白旗 仁

私たち情報システム部は、電子科の一年生から三年生生徒のうち20名の部員が活動をしています。毎年五月に開催される県総体の得点速報のデータ更新や、毎年七月ごろから開催される「WRO」と呼ばれるロボットコンテストに2～3名でチームを作り出場し、世界大会を目指してロボットの製作や調整を行うことが主な活動内容となっています。

今年度の関東大会では、甲府工業は5チーム出場し、結果は3年生のチームが準優勝し全国大会へと進むことができました。しかし、全国大会では上位入賞することはできませんでした。課題を達成できるように一からロボットを作るのは難しく、少しの環境の変化で急に思い通りに動かなくなるため、ロボットが思い通りに動いたときの達成感や喜びはととても大きいです。来年度は全国大会入賞以上の結果を残せるよう取り組んでいきます。

## 美術部

栗田 隼颯

これまで芸術をテーマに据えて作品制作にあたってきた。階段を昇降している際、それら展示物を見るだろう。そこには「かわいらしい」ものから、言ってしまえば「グロテスク」なものまで、多種多様な作品が存在している。一見、相反するこの二つにも、実は共通点が存在する。それは「個性」である。では、「個性」とは何だろうと考えたとき、それは「すきなもの」であると思う。そして、私たちは先に挙げた例も含め、いろいろな形の「すきなもの」を許容しあえているとも思う。「みんな仲良く」けっしてそうは言えないけれど、少なくとも私たちは部員同士仲が悪いこともないし、展示物などの作品を「嫌い」だと否定することもない。そこにいてとても心地が良い場所だ。

そういう意味で、私たち美術部は「互いに認め合っている」部だと、私は思う。

## ハングル語研究部

中川真斗

私たちハングル語研究部は、現在二年生七人、一年生二人の計九人で講師の樋笠先生、顧問の三井先生のご指導のもと、ハングル語を学んでいます。ハングル語研究部は毎週火曜日の放課後の時間を使って活動しています。

その時間の中で、テキストを活用し単語や短い文を覚えたり、日本語でよく使う言葉をハングル語に翻訳して読んだり、といった学習をしています。しかし、部員のほとんどが入部した時はハングル語を初めて学ぶ初心者でした。そこで、樋笠先生から教えてもらった単語を発音し、正しい読み方を身に付け、ハングル語の基本母音・子音一覧表を用いて自分で積極的に日本語からハングル語に翻訳することでよく理解を深めながら覚えるように努力しました。今後も継続的に活動を行っていくとともに、令和八年度でも韓国の姉妹校である清州工業高校との姉妹校交流も計画されているため、その交流に向けて意欲的に学習に取り組んでいきたいです。

## 建築研究部

奥部 諒

私たち建築研究部は大工班、コンペ班の2つに分かれて1年生5名、2年生4名の計9名で活動を行っています。

コンペ班では、企業様が募集している設計競技(コンペティション)で、テーマにあった作品を、個人または班ごとで応募しています。様々な条件がある中で自分のイメージを基に図面に書いたり、模型を作ったり、様々な方法で表現しています。自分で調べているうちに、授業や進路に使える技術を覚える事ができる部活動です。

大工班では、その名の通り大工作業などの木材加工や、建築科に所属していれば受験資格はあるものの、他の部活に所属していると取得する事が難しい技能検定という実技が伴う国家資格の取得や、またものづくりコンテストや技能大会に向け活動しています。そして、得た資格と技術や技能などを、卒業後の進路で活かす事が可能です。

建築研究部では、授業では学ぶことができないことに取り組み、知識や技能を高め目標に向け挑戦していきます。

## 機械技術部

今村 蓮

私たち機械技術部は、日々の部活動を通して技能検定の取得をはじめ、機械加工技術の向上に取り組んでいます。また、ホンダエコマイレッジへの出場を目標に省エネカー製作に向けた準備や整備も行っています。1年生は、機械加工の基礎を中心に学び、工具の使い方や簡単な製作品の製作を通して基本的な技術を身に付けます。同時に、機械加工の技能検定合格を目指し、実技練習に励みます。2年生になると、より高度な機械加工技術を習得し、各種資格取得に向けた練習を行います。2学期からは部活動の大きな目標である省エネカーの製作が本格的に始まります。3年生は、全国の工業高校が集まるホンダエコマイレッジに参加し、走行タイムや燃費性能を競います。このように私たちはものづくりに挑戦しながら確かな技術を身に付けられる部活です。

## 企画実行委員会

新海 充生

企画実行委員会では、2023年の夏から始めた学校公式 Tik Tok と今年度からは学校公式の Instagram を開設しました。顧問の齋藤先生のもと、3年生3人、2年生2人、1年生3人と副顧問の渡辺先生の9人で日々公式 SNS を更新しています。学園祭や球技大会、修学旅行などの各行事の様子だけでなく、先生方を交えた企画の動画や、各部活動の様子も随時投稿しています。今年の学園祭の部活動対抗リレーの動画は約60万回再生され、学園祭の活気あふれた様子と各部活動の雰囲気を同時に配信する事が出来ました。また、各科の実習の様子などを届ける動画は中学生にもわかりやすいように編集をする事で、少しでも工業高校や甲府工業に興味を持ってもらえるような工夫をしています。また、企画実行委員会として山梨県のNEXT CREATOR 事業「人口減少危機をテーマにバズる動画作り？」というワークショップに参加し、様々な方々と交流し、YBS ワイドニュースにてイマドキ部活動として生中継にも出演しました。企画実行委員会として活動した3年間は新しい出会いがたくさんあり、多くの貴重な体験をさせていただきました。これまで動画制作に関わっていただいた全ての先生方や生徒の皆さん、ありがとうございました。Tik Tok を創設した部員がいなくなっても動画投稿は変わらず続き、日々更新し続けます。今後ともよろしくお願ひします。

## 放送委員会

長沢 侑斗

私たち放送委員会は、主に昼の放送や行事の撮影・中継、そして学校のホームページの更新を行っています。

また年に3回行われる大会に向けて、アナウンス・朗読の練習、テレビ・ラジオ制作の技術向上に日々励んでいます。NHK杯ではテレビドキュメント部門で「三角屋根と共に」と校内研究発表で「ミキサーで録音しよう」の2部門で全国へ出場することができました。YBS杯ではラジオ部門に「三十年ぶりの下克上」で奨励賞を受賞しました。その他にも、スキー教室や競歩大会等の行事説明で使われる動画の編集も担当します。

来年度は、アナウンス・朗読の技術や編集の技術も上げていき、大会での上位入賞を目指し、そこから得た技術でさらに学校を盛り上げていきたいです。

## 應援團

三浦 志温

我々、應援團は「勝てば選手の力、負ければ應援團の力不足」の信条のもと日々全力で応援活動を行っています。主な活動は各部の応援、各種壮行会や学校行事などでの応援激励、地域のイベント等の参加、援舞などがあります。今年は野球部が選手権大会ベスト4、秋季大会では準優勝、関東大会出場と快挙を成し遂げ我々、應援團も熱く気合いの入った応援をスタンドの方々とともに作り上げることができ最高の応援を選手に届けることができました。また、イベントでは地域を盛り上げるためお子様からご年配の方へと、全ての方に勇気や希望をもっといただけるよう精一杯活動させていただいています。甲府工業應援團はこれからもより多くの人にエールを届けられるよう日々の練習に励み、精進していきます。また、応援させていただけることを当たり前だと思わず日頃から感謝の心をもって全力で活動していきます。

## 進路委員会

前田 琉成

今年度から進路委員会の仕事は、届いた求人票の事業所一覧をファイリングし、クラスに届けるのが主な仕事となっています。私は1年生の時から委員会に所属していますが、3年生のような仕事をするのかは知りませんでした。昨年までは、何百枚もある求人票を進路室で受け取り、コピーをして各学科の職員室やクラスに置いてある求人票ファイルにファイリングをするという仕事がありました。しかし、今年からは「Handy」というアプリに求人票がまとめられたため、求人票をファイリングする作業がなくなり、今までに比べてかなり楽になりました。

進路委員として活動していて良かったこともあります。それは、先生方と進路について話をする機会を得ることができたことです。そのおかげで進路について考える時間が増え、進路選択がしやすくなりました。今はこの1年間を振り返ってみて、非常に有意義な委員会活動ができたのではないかと考えています。

## 環境委員会

塩島 琉人

環境委員会では、主にごみの回収・分別、ロッカーの整理を行っています。ゴミの回収・分別は学校内で発生したごみを、環境委員が回収します。分別がいい加減なところがあるので、そのようなゴミ袋のなかから、可燃ゴミ、ペットボトル、空き缶などに分別します。そこで、皆さんにお願いがあります。ゴミを捨てる時に少しでも気配りと思いやりをお願いします。可燃物の袋の中に、空き缶やペットボトル、中には飲み残しが半分以上もあるペットボトルが入っている時もあります。捨てる時は、しっかり飲み切ること、分別をしっかりすることを意識してほしいです。私たちの分別作業は「もの」をゴミにするか、資源としてもう一度生まれ変わるか、「もの」の次の未来を決めることだと思って作業しています。これらの活動を通じて、整理整頓をはじめとする5Sの力を身に付けていきます。高校生のうちにこういった力を身に付けられる環境委員会に入ってみませんか。

## 図書・新聞委員会

小林 裕太

私たち図書・新聞委員会は、今年度の活動で、図書室の本の推薦文を作成しました。私たちの推薦文によって、全校の皆さんが図書室に行くきっかけを少しでも増やせるように、それぞれの委員が好きな本のおすすめポイントを表現しました。

私は今年度、『舞姫』（作者：森鷗外 編集者：加藤潤）の推薦文を作成しました。ここで改めて、その推薦文をお伝えします。

「この物語はドイツへ留学している日本の青年とそこで出会った美しい踊り子のドイツ人女性との恋のお話です。二人は両思いでしたが、青年は日本へ帰国しなければならなくなり、二人は葛藤が生じます。その葛藤の中どんな結末になるのかが見所です。」

学校の図書室には、魅力的な本がたくさんあります。司書の先生も相談に乗ってくれるので、ぜひ図書室に足を運んでください。

## 保健委員会

保坂 鷹英

私たち保健委員会は、身体測定の補助や、各種検査の補助を主な活動としてきました。また、感染症予防のための呼びかけといった活動も行ってきました。どの活動も学校全体の感染症予防や身体管理に貢献でき、保健委員会として嬉しく思います。身体測定や検査の補助を行うことで、検査を円滑に進めることができました。感染症予防に関する呼びかけ等を行っていましたが、今年はインフルエンザに感染する人が多くいました。コロナウイルスが落ち着き、感染症に対する関心が薄まっています。修学旅行前後で、二年生を中心にインフルエンザが流行しました。通常より早い時期の流行で、対策が取り切れていない人が多くいたと思います。諸部活動にも大きな影響を与えているので、一層の感染症対策を呼び掛けるようにし、生徒皆の健康を守れるよう、活動していきたいです。

## 選挙管理委員会

望月 春馬

私たち選挙管理委員会の活動は、9月に行われる立会演説会と生徒会役員選挙が一番の大仕事となりました。今年も昨年と同じくチームスでの投票となりました。このようにアプリを活用することにより投開票を大幅に簡略化することができました。ですがたとえ仕事の量は減ってしまってもこの選挙で来年の学校のリーダーを決めるため気を引き締め緊張感と責任感を持って活動してまいりました。大きなミスもなく無事に来年の生徒会役員を選出することができました。来年も選出された生徒会役員を中心に甲府工業をより良い学校へと導いてくれると強く願います。

今後も選挙管理委員会は学校の未来をつなぐ大切な委員会だと思うので、委員会の活動に責任感をもって活動できるよう頑張ってください。

## 規律委員会

小川 飛翔

私が規律委員会の委員長として力を入れて取り組んだことは、規律を単なる決まりとして守らせるのではなく、生徒一人一人がその意味を理解し、自ら考えて行動できる学校づくりである。委員長に就任した当初、注意や指導に対して反発や不満の声が上がるがあった。そこで私は、委員会内で話し合いの時間を増やし、なぜその規律が必要なのか、どのような伝え方が相手に受け入れられるのかを共有した。また、自分自身が誰よりも身だしなみや時間厳守を徹底し、模範となる行動を心がけた。さらに、生徒への指導では頭ごなしに注意するのではなく、相手の状況を聞いた上で理由を説明するよう努めた。その結果、委員の指導に一貫性が生まれ、生徒との無用な対立が減少した。委員長としての経験を通して、集団をまとめるためには厳しさだけでなく、信頼関係と対話を重ねることが重要であると学んだ。この学びを今後の将来の進路に生かしていきたい。

## 交通安全委員会

小林 唯冬

私たち交通安全委員会は、甲府工業の交通安全を守るために日々活動しています。主な活動として、交通安全委員に所属する生徒が率先してヘルメットを着用し、ヘルメット未着用や「ながらスマホ」などの交通ルール違反をしている生徒に注意を呼びかけています。また、交通安全講話をはじめとした学校行事の運営にも携わり、交通安全意識の向上に努めています。甲府工業は山梨県内の高校の中でも交通事故が多い学校であるため、私たち交通安全委員の役割はとても重要です。一人ひとりが責任を持って行動し、事故を減らすために、これからも全力で活動に取り組んでいきます。

## 家庭科クラブ

北畑 蒼

私たち家庭クラブは、普段の家庭科の授業で学んだこと生かし、学校内に限らず地域の生活をより良いものにすることを目標として日々の活動を頑張っています。家庭科の授業では、近くにある朝日幼稚園に訪問し、たくさんの子供たちと交流をするという体験学習をしました。今年も昨年と同じように、他校の家庭クラブの発表を聞きに行きました。それぞれの発表者が身近に起こった出来事を解決するため、様々な解決策を考えて、実行し、その事柄を資料にまとめていて、勉強になることがたくさんありました。中には、私たちの日常にも役立つような内容もあり、家庭科の授業でも学ぶことがない細かい部分も発表していました。新たな知識を身に付けることのできた、とても貴重な機会にできてよかったです。今年も家庭クラブの活動として目立った活動はしていませんが、これからも学校だけでなく、地域に目を向けてこの活動ができたらいいなと思います。